

## パリモーターショー、EVに脚光

### ◆パリモーターショーでは電気自動車に注目が集まる

2016年9月29日、パリでモーターショーが開幕した。今年は、電気自動車（EV）、コネクテッドカー、自動運転車が目を引き、その他には、欧州で知名度の高いBlablacar（ブラブラカー）のようなカーシェアリング企業の参加も特徴的だった。

EVは、価格の高さ、航続距離の限界、充電設備の不足という問題はあるものの、徐々に課題は克服されつつある。今回は数十のモデルが出展され、「ルノー・ゾエ」の航続距離は従来の150kmから300kmに倍増した。「オペル・アンペラe」も同程度。メルセデスベンツのコンセプトカー「ジェネレーションEQ」は500kmだ。

### ◆VWディーゼル排ガス問題から1年、EV「I.D.」を初披露

なかでも注目を集めたのはフォルクスワーゲン（VW）で、同社はこれまで、環境にやさしいディーゼルエンジンの開発に力を入れてきたが、排ガス規制回避の不正ソフト問題発覚後、この数か月でEVへの傾倒を急速に強めている。今回VWは、新しいコンセプトEVの「I.D.」を初披露した。最長航続距離は600km。開発中のEV専用プラットフォーム「MEB」で、主要部品の配置を柔軟に組みかえられる。部品の共通化で、20年の発売時には「ゴルフ並みの価格に抑える」という。VWは25年までに30車種以上のEVを投入し、グループ年間販売台数に占めるEV比率を現状の1%から最大25%に引き上げる計画だ。

### ◆大気汚染に悩むフランスなどで、汚染物質を排出しないEVが普及する可能性も

大気汚染に悩むパリは、市内への車の乗り入れを制限したり、セーヌ川沿いの道路の車両通行禁止を検討する一方、EVのカーシェアリングの普及には積極的だ。

環境NGO「Transport & Environment」は9月、欧州のディーゼル車のNOx排出量の調査結果を公表した。欧州連合が定めた制限値（「EURO5」「EURO6」）を大きく上回るディーゼル車は2,900万台。国別ではフランスが552.7万台でトップ、ドイツが532.1万台と続いた。メーカー別では、フィアット、ルノー・日産などは制限値の10倍を超える結果だった。EV普及の下地はありそうだ。 【赤山英子】